鳴子温泉郷　日本有数の多様な泉質

- 1200年の歴史
- 豊かな自然・水源の森
- 鳴子火山群
- 源泉数　370
- 泉質数　7種類
- PH：強酸性～強アルカリ性
- 色や香りも多彩



鳴子温泉郷にある泉質の「泉質別効能」の適応マトリクス

泉質	自律神経不安定症	不眠症	うつ状態	切り傷	末梢循環障害	冷え性	皮膚乾燥症	疲労回復	健康増進	アトピー性皮膚炎	尋常性乾癬	慢性湿疹	表皮化膿症	耐糖能異常（糖尿病）
Tier 1 単純温泉	●	●	●											
Tier 1 炭酸水素塩泉			●	●	●	●	●							
Tier 2 塩化物泉				●	●	●	●							
Tier 2 硫酸塩泉				●	●	●	●							
Tier 2 含鉄泉						●		●	●					
Tier 3 硫黄泉										●	●	●	●	
Tier 3 酸性泉										●	●		●	●

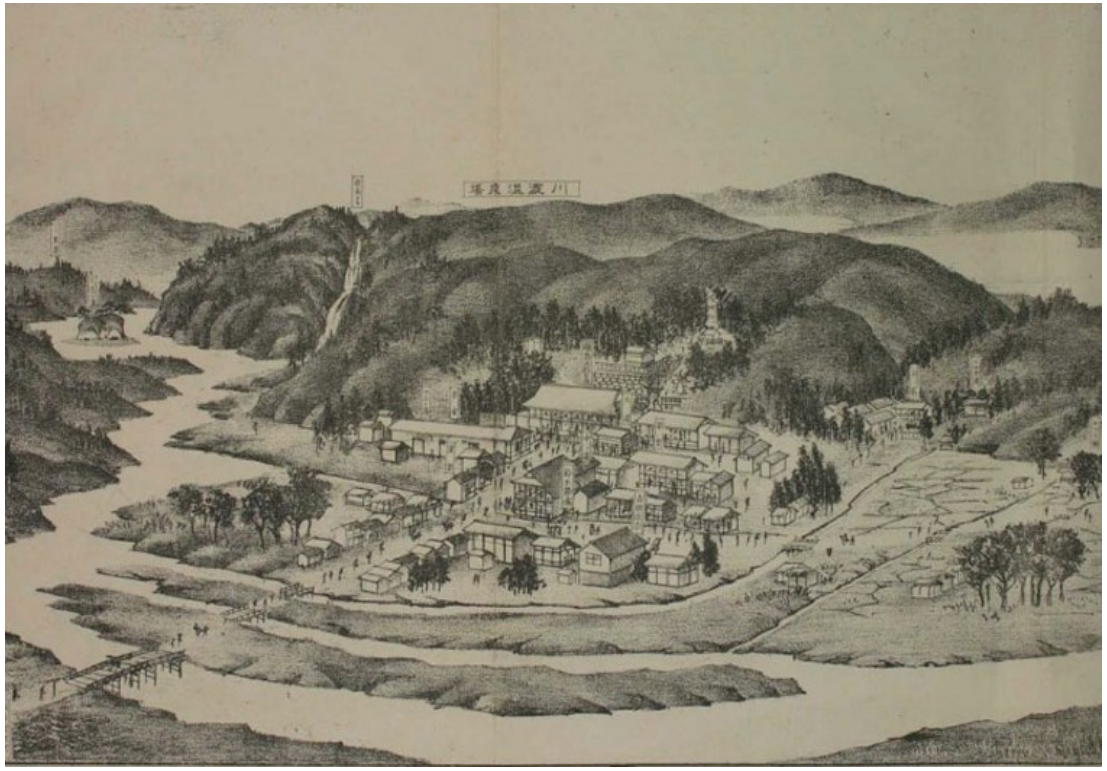
5つの温泉地で、泉質による「総合温泉病院的特徴」を有している

温泉地ごとに泉質と役割が分かれる

温泉地	地理・歴史	主な泉質	療養・保養上の役割
鳴子温泉	温泉郷の中心部。奥州三名湯の一つ	硫黄泉、酸性泉、硫酸塩泉、塩化物泉など極めて多彩	「かさ鳴子」。皮膚・代謝・運動器の療養の中心
東鳴子温泉	古くからの湯治場。伊達家専用の御殿湯があった	純重曹泉、含食塩-重曹泉、含鉄泉など	肌に優しく保温性が高い。病後回復期のリハビリ、現代湯治
川渡温泉	温泉郷の入口。最も古く開湯	含硫黄-ナトリウム-炭酸水素塩・硫酸塩泉、単純温泉など	「かっけ川渡」。神経・関節・循環器の療養
中山平温泉	鳴子峡の西側、大谷川沿いの山間	強アルカリ性の硫黄泉・炭酸水素塩泉（「うなぎの湯」）など	森林渓谷での気候療法・転地保養、美肌・保湿
鬼首温泉	鬼首カルデラ内。間欠泉と高原リゾート	単純温泉、アルカリ性単純温泉、塩化物泉など	夏の避暑保養、スポーツ後の疲労回復、睡眠の改善

伊達藩政下の湯守制度と農民の湯治

・仙台藩が農民等の湯治を奨励、湯守制度
・赤湯（現東鳴子温泉）に岩出山城主の御殿湯を設置
・一廻り７日。2～3廻りが定着
・泉質別経験的効能：かっけ川渡、かさ鳴子



嘉永4年1851年の諸国番付で東前頭



近代：温泉医学の医療、学術の拠点化

・昭和１３年「陸軍病院臨時鳴子分院」戦後「国立鳴子病院」→現在「大崎市民病院鳴子温泉分院」
・昭和１９年「東北帝国大学医学部附属病院鳴子温泉分院」　黒川利雄先生が設立に尽力
・昭和３０年「東北大学医学部附属温泉医学研究実験所」
・平成６年　「東北大学医学部附属病院鳴子温泉分院」　閉院





杉山尚先生、菊池正三先生、三友紀男先生

＜杉山尚先生＞
1944年鳴子温泉へ赴任。東北大学医学部附属病院鳴子温泉分院にて退官までの34年間にわたり温泉療法の科学的解明と臨床研究を行う。
1.温泉の飲泉、特異薬学的作用、自律神経などが生体に及ぼす影響
2. 「湯あたり」の科学的解明…高温頻回浴による非特異的変調作用
3. リウマチ・機能障害に対する臨床とリハビリテーション研究

＜菊池正三先生＞
昭和26年　国立鳴子病院に赴任。以来20年ほどにわたって整形外科医療の見地から「温泉医学（温泉療法）」と「整形外科臨床」を融合させたリハビリテーション研究を行う。

＜三友先生＞
杉山、菊池両先生の後を継ぎ、東北大学病院鳴子温泉分院、国立鳴子病院で長年にわたり鳴子町民に愛されながら温泉療法の有用性を臨床の場で実証する。日本温泉気候物理医学会にて会長を歴任し、温泉療養、鳴子での温泉医療を日本に知らしめしてきた。

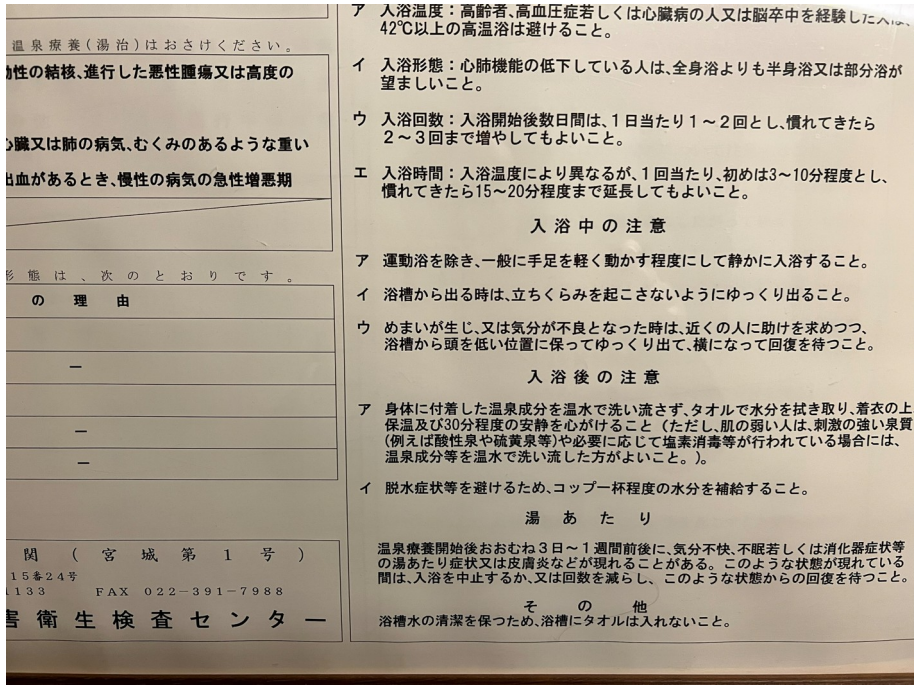


杉山尚先生

鳴子は「湯あたり」研究の聖地

論文『湯あたり』（昭和36年）

古くから経験的に知られていた「湯あたり（温泉地への適応過程で一時的に起こる体調変化、Balneal reaction）」を医学的に定義しようとした。
湯あたりを起こしている患者の血圧、脈拍、血液成分、自律神経の動態を詳細に研究し、
これが単なる「のぼせ」や「悪化」ではなく、温泉という物理化学的刺激に対して
生体が環境に適応しようとする一種の「好転反応（非特異的変調作用）」
であることを示唆した。


温泉療養（湯治）はおさけください。

…性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の

…臓又は肺の病気、むくみのあるような重い

…出血があるとき、慢性の病気の急性増悪期

…形態は、次のとおりです。

の理由
—
—
—

関（宮城第1号）
…15番24号
…133　FAX 022−391−7988
…衛生検査センター

ア　入浴温度：高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42℃以上の高温浴は避けること。

イ　入浴形態：心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。

ウ　入浴回数：入浴開始後数日間は、1日当たり1～2回とし、慣れてきたら2～3回まで増やしてもよいこと。

エ　入浴時間：入浴温度により異なるが、1回当たり、初めは3～10分程度とし、慣れてきたら15～20分程度まで延長してもよいこと。

入浴中の注意

ア　運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。

イ　浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。

ウ　めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。

入浴後の注意

ア　身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上保温及び30分程度の安静を心がけること（ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質(例えば酸性泉や硫黄泉等)や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよいこと。）。

イ　脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。

湯あたり

温泉療養開始後おおむね3日～1週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。

その他

浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。



昭和24年　「農民の家」の設立

・戦後の農村民主化と農民の健康福祉向上を目的
・東北の農民における一大湯治拠点
・「三養の精神」療養・保養・教養
・平成初めごろの最盛期、300室以上の部屋数で年間18万人来館
・「農民の家」がひとつのまち、診療所、４種の源泉、混浴、交流
・平成30年に閉館　鳴子の戦後湯治文化にピリオド







地球のつくった総合病院・セーフティネットとしての温泉

・かつて鳴子温泉郷で行われた温泉医学研究、温泉療養の歴史を現代にどう活かすか？
・第二次世界大戦時の台東区児童の「集団疎開」、東日本大震災時の二次避難場所
・平成14年　鳴子温泉郷観光協会による旅館と病院が連携した「温泉療養プラン」
・2016年、５地区全域での国民温泉保養地指定⇒環境省「新・湯治」
・改めて、温泉地全体として未来に向けた休養、保養、療養の役割を担っていけるか？





地域が一つの温泉保養所「場」をつくる。DMO。

•分散している土地全体の資源をつないで活かしてゆく（地域がひとつの温泉保養所）

•農業、林業、観光、市民団体等を有機的にネットワークした温泉まちづくり

•観光、休養、保養、療養のグラデーションを描ける「場づくり」

•司令塔としてのDMO設立の必要性

